●発行／豊岡市 市長室 ☎0796-23-1111 FAX24-1004
●編集／政策調整部秘書広報課 FAX24-2575
〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町2番4号 URL http://www.city.toyooka.lg.jp
（総合支所）・竹野☎47-1111・日高☎42-1111・城崎☎32-0001・出石☎52-3111・但東☎54-1000

歴史｜探訪 ～文化財を巡る～⑨

豊岡の文化財を紹介します。皆さんの身近にある文化財を見ていきましょう。
《問合せ》文化振興課☎23-1160

「美術工芸品（彫刻）」（その４）

四天王は持国天、増長天、広目天、多聞天の4像からなり、それぞれ邪鬼（天邪鬼）を踏んで須弥壇の四隅、東、南、西、北を守るとされています。薬師如来は人間の病苦を癒し、内面の苦悩を除くとされており、右手は施無畏印を結び、左手に薬壺を持っています。これらのほかにも美術工芸品として優れた仏像が多数指定されており、またそれぞれが信仰の対象として大切にされ、長い歴史を刻んできました。

木造四天王立像
（国指定）清冷寺・東楽寺

ヒノキの一木造で、広目天の像高は134cm。他の３体もほぼ同じ大きさです。どの像も腰から下が大きく、全体にどっしりと落ち着いた姿になっています。四天王像としてはいかめしさが失われていますが、それぞれの像にわずかな変化を与え、微妙な動きをつけて重厚さを感じさせる造りになっており、平安時代後期の作とされています。

木造四天王立像
（県指定）城崎町湯島・温泉寺

ヒノキの一木造で、増長天の像高は132cm。他の３体もややばらつきはありますが、ほぼ同じ大きさに造られています。平安時代中期の作とされ、厳しく引き締まった顔つきとどっしりとした体躯を持っています。平成20年度からの修復が完成し、４体がそろって須弥壇に納められています。

木造薬師如来坐像
（県指定）但東町栗尾・松禅寺

ヒノキの一木造で、像高126cmの結跏趺坐を組む坐像。背中と脚内部に内刳りが施されています。切れ長の目や小さく結ぶ口、あごから肩にかけての曲線や肉付きには重厚感がみられ、安らぎを感じさせる像に仕上がっています。また浅く彫り出された衣文の特徴などから平安後期に造られたと考えられます。

木造薬師如来坐像
（県指定）出石町袴狭

ヒノキの一木造で、像高99cmの結跏趺坐を組む坐像。像内の背面に、治承３年（1179年）の造立墨書銘が書かれており、像のおだやかな作風からも平安時代末の作で間違いないとされています。台座と光背は貞享4年（1687年）に寄進されており、像自体もこの時か、それ以降にかなりの補修や彩色がされています。

語句の解説

- **邪鬼（天邪鬼）**…仁王や四天王に踏みつけられた小さな鬼。人間の煩悩の象徴ともいわれ、苦悶の表情をしている。
- **須弥壇**…仏像を安置する壇。世界の中心にそびえ立つという須弥山を表しているといわれる。
- **施無畏印**…５本の指を伸ばし、手のひらを外に向けて肩の高さに上げる印相。
- **結跏趺坐**…左ももの上に右足を乗せ、右ももの上に左足を乗せる座り方。坐禅の組み方と同じ。

寺院などによっては、拝観できない場合もあります。

PRINTED WITH SOY INK Trademark of American Soybean Association
「広報とよおか」は、資源保護のため環境に優しいソイ（大豆油）インキで印刷しています。